

## GINGA REPORT 401

No. 108  
2024.5

そらんぼ四日市

検索

発行日：令和6年5月1日  
編集＆発行：四日市市立博物館・プラネタリウム  
電話：059-355-2700

## 5月の星空

星図：ステラナビゲータ11/(株)アストロアーツ

## 北斗七星と春の大曲線

5月15日21時の星図

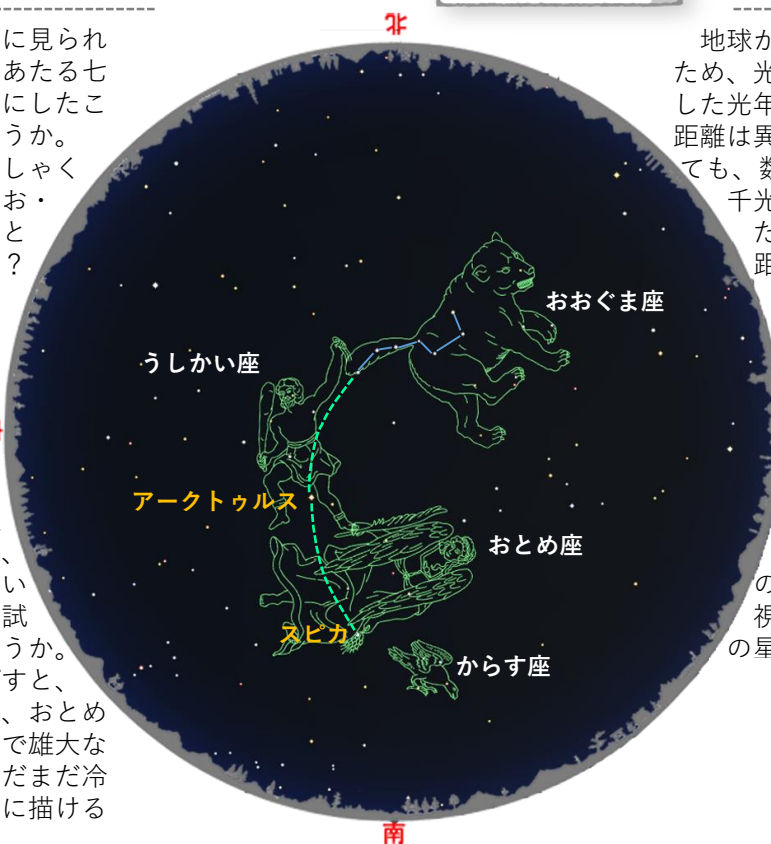
## 星までの距離の単位『光年』

夜空の真上から少し北寄りに見られるおおぐま座。そのしっぽにあたる七つの星、北斗七星は一度は耳にしたことのある名前ではないでしょうか。

北斗七星を見つけたら、ひしゃくの水を汲む部分の先端から『お・お・ぐ・ま・の・し・っぽ』と結んでみてください。「あれ？七つ星だから、お・お・ぐ・ま・の・し・ぽ、でしょ？」という人は、ちょっと目をこらしてみましょう。『し』のすぐ近くに、小さな『つ』が見つかるはずです。

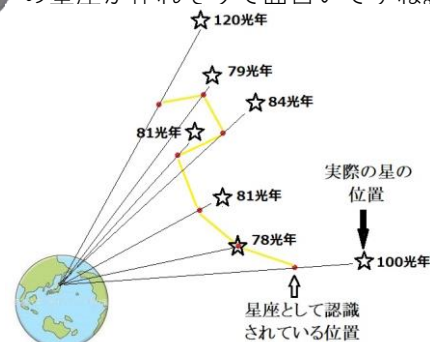
これを二重星と言います。二重星とは、二つの星が接近して見える星のことで、昔は、兵士の視力検査に使われたといわれています。ぜひ一度、目試しをしてみてくださいいかがでしょうか。

そして、しっぽの先をのばすと、うしかい座のアルクトゥルス、おとめ座のスピカ、からす座を繋いで雄大な春の大曲線の出来上がり。まだまだ冷える春の夜でも、さっと簡単に描けるのが良いところです。



地球から星までの距離は非常に遠いため、光が1年間に進む距離を単位とした光年で表します。星によってその距離は異なり、肉眼で見える星に限っても、数光年先にあるものから、何千光年先にあるものもあります。ただ、どの星も非常に遠いため、距離の違いは感じられず、プラネタリウムの天井に投映された星のように、同じ距離で輝いているように見えます。

北斗七星も地球からは綺麗にまとまって見えますが、実は遠いもので120光年、近いもので78光年離れています。これを、宇宙空間から立体的に見てみると、下の図のような感じになります。視点を変えてみると、色々な形の星座が作れそうで面白いですね。



## 天文トピック

## みずがめ座η流星群極大

5月6日朝6時に、みずがめ座η流星群が極大最も活発)になります。みずがめ座の位置のため、観察に適した時間帯は短く、極大前のおよそ2時から3時半ごろです。1時間あたり5～10個くらい見られると予想されています。ただし、この流星群の活発な期間は比較的長く続くため、6日だけでなく5日の夜明け前ごろも観測できるかもしれません。この時期は月明かりもなく、流星群観測のチャンスです。

流星は放射点を中心に放射状に出現します。ただ、放射点付近だけでなくどちらの方向にも現れますので、なるべく空の広い範囲を見渡すようにしましょう。



## ガリレオ教室

## 星のなぞなぞ・クイズ大会

天文ボランティアと一緒に星や星座について、なぞなぞやクイズで楽しく学んでみませんか。

日時：5月12日(日)

①11:00～11:20

②14:00～14:20

場所：コズミックラウンジ

## 博物館主催 スターウォッチング

## 博物館主催きらら号観望会

日時：5月25日(土) 20:00～21:30

場所：三滝公園

内容：アルクトゥルスを見よう



## 編集後記

南の空高くに、春の大曲線がきれいにカーブを描いているのを見つくと新緑の訪れを感じます。筆者の一番好きな時期です。

さて、今年もゴールデンウィークの時期にみずがめ座流星群が極大を迎えます。『早起きは三文の得』とも言いますので、ちょっと早起きして流星にお会いごとをしてみませんか？

※申し込み不要、参加無料、天候不良時は中止。  
※参加者が多い場合は受付を制限することがあります。  
※天候不良等による実施判断は、開始時刻の3時間前に当館ホームページ及びFacebookで発信します。

## 5月の月

1日 下弦

8日 新月

15日 上弦

23日 満月

31日 下弦